

(別記様式)

令和5年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応した,特色ある教育の創出 2 少人数教育により個性を活かし、自ら動き、挑戦し、進路目標に応じた学力・能力を身につけ、将来を切り拓いていくことができる生徒を育てる 3 地域や大学等との連携により探求を深め、「広い視野と高い理想」「未知への興味・課題解決の創造性」を育てる 4 郷土の自然や文化を学び、地域や京都府を誇りに思い、前向きに地域と係わり貢献しようとする「地域の担い手」「森の担い手」を育てる	・コロナ禍による行事等の変更や縮小もあったが,少人数を活かした個に応じた学習指導,進路指導を進めることができた。予備校サテライト講座,進路講習,模試等を効果的に配分し,難関大学、公務員をはじめ,ほとんどの生徒が希望進路を実現できた ・ICT教育推進準備室を立ち上げ,学習活動等が保障できるよう取り組んだ。教職員研修や様々なアプリの導入等円滑に取り組むを進めることが緊急の課題である ・HPやメール,広報誌,テレビや新聞等による発信を行った。本校の魅力を伝える広報活動と入寮生徒の定員の関係で,生徒募集活動と連動させる必要がある ・地元に加え他地域や全国募集による入学生の確保に向けた取組を進めたが,寮整備など,更なる条件整備を行う必要がある ・行事の精選・会議の効率化など,働き方改革を推進しているが,本校の特色ある教育活動を損なうことなく一層の進展を図る必要がある ・小規模校の部活動の新たな取り組みとしてフリースポーツクラブの在り方や全国大会で活躍できる部活動の充実を探っており,モデルケースとなるよう,引き続き内容の検討を進める必要がある	1 スクールポリシーを明確化し、地域連携や高大連携等を深め、更なる学校の特色化に取り組む 2 新学習指導要領の実施やICT教育の推進のため、本校に適した方策を研究し,教職員研修の充実を図る 3 多様な生徒や進路希望に対し、少人数教育を活かしたきめ細かな指導とともに、地域や大学等との連携により探究を深め、自ら考え、動き、解決しようとする機会を増し進路実現に繋げる 4 本校や地域の発展にも繋がる「SDGs」を教育活動の中心に捉え、学校運営協議会による地元幼小中学校や行政・地域団体等との連携を進め、地域に信頼され、地域の活性化に貢献できる取組を更に推進する 5 学科、カリキュラム、学校行事、特別活動、部活動などの特色ある教育活動について、積極的な情報発信を行い,組織的,効果的な生徒募集につなげる。 6 喫緊の課題として遠方からの入学者が本校を選択できるよう環境整備に取り組む。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	学校活性化の推進	専門学科「京都フォレスト科」の教育内容の充実	A	A	A	フォレスト科、普通科におけるそれぞれの学びを深めることができた。校内各種会議の連携と教職員間の連携を図ることで働き方改革の推進に寄与した。分掌の効率的な再編に関しても教職員が協力し目の前の課題に対して連携できた。例年以上に対応が必要となり十分な研修時間の確保が難しかった。
		生徒募集に係る諸制度と校内体制の見直し	B			
		地域連携や大学等との連携による特色化と深い学びの充実	A			
	「チーム北桑田」としての組織的で効率的な学校運営	校内各種会議の機能的運営	A	A		
		分掌間・教科間・学科間等,教職員間の連携強化	A			
	働き方改革の推進	退勤時間を意識した業務の効率化・合理化	A	A		
	教職員研修の充実	ICT教育関連の研究と教職員研修の充実	A	B		
		初任者研修を核とした「学び合う集団」づくり	B			
教育課程の編成と実施	教育課程の編成と生徒・保護者・地域のニーズと期待に応じた教育課程の編成・再考と実施	教科主任会議を中心とした課題、修正点の把握と改善	A		B	教科主任会議で連携と議論を重ね、新課程2年目の運用と令和6年度実施教育課程の編成に努めた。次年度も新課程運用と同時に課題、修正点の把握に努め、令和7年度以降の教育課程編成に活かす。
学習指導	生徒の学習意欲の向上	教師が生徒と共有する時間確保のために、主管会議の精選・教育環境の整備・教育計画の工夫と実現	B	B		主管会議の時間短縮、教育計画の工夫等、臨機応変に対応することで一定の成果が得られた。家庭学習による学力伸長については、ICTの活用と合わせて今後も課題である。
		ICTを活用し知的好奇心をくすぐる授業と家庭学習の相乗効果で実力をつける学習活動の展開	B			
総務企画	学校経営計画に基づいて展開される特色ある教育活動の記録と広報	両学科の学習内容及び学校行事、部活動、地域連携等、特色ある教育活動と、そこに学ぶ生徒の姿を記録し、広く地域社会に発信する	A	B	B	両学科統合・複数年使用可能仕様『学校案内』へ改定。広報効果を落とさず印刷費用を大幅削減し、他項目として在校生に還元できる見通しである。また、年度当初の生徒募集活動に間に合わせるための編集作業も負担軽減が可能となる。 一方、両学科の学力向上システムが軌道に乗り、進学実績や部活動の取組も、ここ数年、最も安定しているにも関わらず、地元中学校からの進学率が伸び悩み、加えて、北桑田地域以外からの志願者についても、入寮定員の関係で受検者増には繋げることができなかった。
	令和5年度入学生の定員充足率70%、美山中学校・京都京北小中学校からの進学率75%達成	学校説明会、中学校訪問、個別進路相談、広報物の発行について、対費用効果を考慮しつつ効果的・効率的に行い、本校を希望する中学生及びその保護者に対して進路指導の一助となる情報提供を積極的に行う	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
人権教育	生徒の人権意識の向上	生徒の実態に即した人権教育の実施と人権尊重の意識や差別を許さない態度の育成	A	A	B	人権学習を各学年とも年間2回実施することができた。 人権学習後の感想文は、自分の生き方についてしっかり考えられたものが多かった。これからの行動に繋がればと期待する。 教職員研修は、「同和問題」をテーマに実施した。
	分掌、特に学年との連携を密にする教職員研修の充実	各学年の課題に対する適切な対応	B	B		
		教職員の世代交代を踏まえ、これまでの人権教育の成果と課題を引き継ぐ取組の推進	B			
ICT教育推進	BYOD端末導入や端末・アカウント管理体制の構築	BYODの導入から2年目を迎え、特定の教職員に負担が偏らないよう、端末の導入に関する体制や端末・アカウントの管理体制を構築する。	B	B	B	端末の導入・アカウント管理の体制については、一定整えることができた。一方で、次年度入学生よりMDMを導入しないことにかかる作業や端末の卒業に係る手続きなどこれまでにない作業を円滑に行える体制の構築が次年度の課題である。 職員朝礼の廃止・会議のペーパーレス化といった、業務のICT化を推進できた。
	業務のICT化の推進	Teamsなどのツールを活用できる環境を整備し、働き方改革に繋がる業務のICT化を進める。	A			
進路指導	3年間を見通した進路指導を推進し、進路意識を喚起して自ら進路を切り拓く力を育成する。	担任団、各教科と連携し、生徒一人ひとりの適性・能力を的確に把握し、少人数教育を活かしたきめ細かな指導を通して、希望進路の実現のための学力・能力の向上を図る	A	A	A	生徒一人ひとりの話をしっかりと聴き、生徒自身が自分と向き合い、将来についてしっかり考えさせた上で進路を決定していくことができた。 1・2年については、担任団と連携し、創意工夫をしながら次年度を見据えた進路指導ができた。 進路かわら版の定期的な発行や、保護者向けの進路講演会の実施ができた。
		進学講習、サテライト講座、模擬試験等を活用し、学ぶ姿勢の確立や基礎学力の定着を図る	A			
		保護者向け進路講演会・進路説明会などをとおして、保護者への情報提供の充実を図る	A			
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識・社会性の養成	規則違反やマナー違反・不正を許さず安心して安全な学校生活を推進する	B	B	B	年度当初から規則違反やトラブル等問題事象が続き、なかなか未然防止することができなかった。該当生徒については担任と連携して指導に当たることができた。来年度は注意喚起や巡回等事象発覚後の指導ではなく生徒の規範意識を養成し、未然に防止できる取り組みが必要。
		SNS等でのトラブルを防げるよう様々な場面で啓発を行う	B			
		いじめ・嫌がらせを許さない好ましい人間関係の育成を図り、家庭・関係機関とも連携し、問題行動の未然防止を行う	A			
	安全教育の徹底	定期的な交通安全指導に加え生徒会とともに交通安全を推進できるようにする	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
特別活動	生徒会活動の充実	既存の行事だけでなく全校生徒が更に充実した学校生活を送れるよう生徒会が主体的に活動する	A	A	A	生徒会は行事だけでなく生徒の要望を取り入れ充実した学校生活が送れるよう活動できた。来年度は全生徒がタブレットを持つため学校祭でも有効に活用できるよう取り組みたい。
		学校祭でもICTを効果的に活用できるよう取り組み内容を検討する	B			
健康・安全教育	保健管理、保健教育の充実	配布物の持ち帰り等、ゴミを出さないよう生徒に指導し、週3日の平常時清掃をしっかりと実施する	A	A	A	R2年度からコロナ禍のため中断していた救命講習会を実施することができた。週3日の平常時清掃、ゴミの分別もしっかり実施することができた。ワックスがけや委員会による清掃点検も定着してきた。心臓検診の精密検査や、歯科検診後の治療を徹底する必要がある。
		各種健診結果により、生徒への医療機関受診を促進する	B			
		薬物乱用防止教育や性教育を実施し、生徒の意識向上を図る	A			
	特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実	生徒の状況把握を徹底し、担任団とも連携し情報の共有を図り、個々の生徒への適切な指導と支援に努める	A	A		
道徳教育	規律・規範を重んじる姿勢の養成	規則や、公共の場におけるマナーを守る態度の育成	B	B	B	授業や学校行事を通して、望ましい人間関係や人間性について考え、実践する機会を持つことができた。概ねルールやマナーに関して大きな問題はなかった。相手の気持ちを考えない言動が見られるところは課題として継続的に指導を行いたい。
	愛情を持って人に接する人間性の養成	各教科や各分掌との連携を図り、人間として望ましい在り方について考える姿勢の育成	B			
家庭・地域との連携 (PTA)	保護者・地域との連携のより一層の強化	地域から注目され、信頼を得られる「地域創生推進校」を目指し、地域やPTAと連携した魅力ある学校づくりを行う	A	A	A	荒天で実施できない会議やイベントがあったが、ほぼ予定通り開催、実施する事ができた。 文化祭、耐久走での食品提供も実施でき、生徒に好評だった。 「PTAだより」については年3回の発行ができた。
	地域への積極的な広報活動の展開	「PTAだより」等の広報発信を行い、「みがく、かがやく。」の実践を発信する	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学校図書館	図書・電子資料の適切な活用力の醸成、著作権意識の向上・豊かな読書生活への助長	紙面・ホームページ等を通じた情報発信	A	A	B	紙面・HPを活用して、通年図書館だよりを配信することができた。図書委員会の活動やイベント等により、昨年度より読書量が増加した。授業利用や各教科・地域資料の収集が今後の課題である。
		資料の適切な利用促進	B			
		読書活動の推進、読解力向上のための読書推進	A			
	地域文化の資料・情報収集に努め、地域活性化への貢献を図る	地域の特色である林業を中心に、地域に関わる資料の収集、展示	B	B		
農場部	「SDGs」持続可能型社会や組織の構築を目指し目標を実現させる教育活動の実践	産学官連携した教育活動の実践	A	A	A	チーム京都フォレスト科として、生徒・教員一人ひとりが目標を明確化させ、自己実現に向けた学習・生活・部活等、計画的、継続的な取り組みを心掛けた。産学官・連携校を中心とする連携事業については相互理解に基づく教育的効果が一定以上得られた。数年ぶりに測量士補の資格取得生徒が輩出できた。事業実施に基づき実働的な体制の構築や手法の精選が今後今以上に必要となる。
		提携校（府立大学、府立林業大学校）との連携事業の強化	A			
		職業教育カリキュラムマネジメントの実践	B			
	京都フォレスト科の立地条件や環境・施設・設備等を十分に活かせる教育活動の実践	地域環境・地域資源を活かした教育活動の実践	A	A		
		知識や技術の向上を目指した研修会の実施	A			
		安全マニュアルの作成	B			
	生徒・保護者・地域・社会等の京都フォレスト科に対するニーズと期待に応える教育活動を実践	適時、適切な全体指導と個別指導の実践	A	A		
		資格取得の奨励と対策講座の実践	A			
寮務部	安心して信頼され、円滑な寮生活を送るためのルールや規則の徹底	寮生徒とのコミュニケーションを充実させ、信頼される人間関係を構築し、きめ細やかな生活指導による規則の遵守	B	B	B	全体的には規則・ルールは守れたが生活習慣の向上が必要である。コロナウイルス感染症の拡大を未然に防止することができた。設備の修繕は進んだが、急速な老朽化が進んでいるため設備更新が課題である。
	安全衛生と快適な生活環境の確保及び施設の充実	ひとりひとりが健康維持・増進と安全衛生の確保に勤め、施設・設備の点検と改善による快適な生活環境の確保	A			
事務部	先進的で明るい教育環境づくり	Wi-Fi環境整備を含め、先進的で安全な設備改修に努める。	A	A	A	モバイルルーターの増設によりWi-Fi環境の整備を行った。コロナが第5類に分類されたことで換気対策を中心として換気扇、FEPA対応空気清浄機の購入及び網戸の設置教室を増やし対策に当たった。
		政府のコロナ対策に対応した、設備、備品の整備	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
第 1 学年	適切な生活習慣の確立と規範意識の育成に努める	授業を受けるのに適した、落ち着いた学習環境を確保する	A	B	A	コロナ禍が明け制限がない活動機会の中で、多くの生徒が学習と部活動等を両立し、有意義な学校生活を送ることができている。支援を要する生徒について教科主任会議や教科担当者会議、教育相談会議を通して学校全体に情報を共有し、対応することができた。連携体制をより強化し生徒指導を充実していきたい。今後は進路実現に向け、進路学習を一層深め意識の向上を図っていきたい。
		服装・挨拶・言葉使いなど、高校生としてのふさわしい態度、および自己と他者の双方を尊重する規範意識を育成する	B			
	学習指導の充実と自主活動への積極的参加を促す	基礎学力の向上のため、家庭学習習慣の定着を図る	B	A		
		部活動への積極的加入を促す。学習と部活動との両立をはかるため、分掌・教科・地域・家庭との連携を強化する	A			
		支援を要する生徒の情報を共有し、保健部と連携して適切な支援をする	A			
第 2 学年	適切な生活習慣を確立し、規律意識及び社会人としてふさわしい態度を育成する	学校生活を通して規範意識を高め、言葉遣いや服装など、高校生としてふさわしい態度の育成を行う	B	B	A	学習と部活動等を両立し、意欲的に学校生活を送ることができている。特に研修旅行では各自が主体的に取り組み、クラスが協力して有意義な研修旅行とすることができた。自らの進路について考え、行動する機会を生徒一人ひとりが持てるよう、きめ細かな指導を心がけた。引き続き、進路実現に繋げていきたい。
		授業規律を確保し、家庭学習を習慣化することによって学習意欲を向上させる	B			
	学習や部活動、学校行事等、充実した学校生活がそれぞれの進路実現の基盤となるよう導く	学校行事を通して仲間意識を向上させ、学校の中核を担う学年としてリーダーシップや協調性を育成する。	A	A		
		具体的な進路目標を設定し、適切な時期に面談を行うことで、希望進路を具体化し、進路実現への助言等を行う。	A			
		希望進路実現に向けた指導の充実	日々の授業を基本としながら、放課後の補習、サテライト学習等を積極的に活用し、確かな学力の育成を図る。また、保護者との連携を密にして、希望進路実現につなげる。			
社会人基礎力の向上	学校生活や行事等を通じて、学年としての仲間意識や協調性の向上を図る。また、最上級生としてリーダーシップ及び他人を思いやる心の育成を図る。	A	B			
	自身の行動に対する責任と自覚を促し、他者に対する礼儀、提出物の期日厳守等を確実に指導し、社会人としての基礎力の向上を図る。	B				

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
国語科	学習習慣を確立することによる基礎学力の定着と、生徒が興味関心を持ち、主体的に取り組むことのできる授業を目指す	計画的、継続的な小テストや学習課題を実施し、基礎言語力を向上させる	A	B	B	読解力の基礎となる漢字・語彙の定着に向け、小テスト等を継続的に行い、週末課題を計画的に取り入れるなど、家庭学習の習慣づけに向けた取組が充実できた。また、外部講師と連携し、講演や体験事業などを実施し、日々の授業内容を深化する取組ができた。進路実現に向けた実践的な力の養成を視野に入れ、授業で書くこと、話すことの指導を積極的に行うとともに、授業外の時間にも個別指導を行うことで、希望進路実現の支援ができた。 ＩＣＴ機器の活用についてはもう少し工夫の余地がある。
		授業での学びを広げ、深めるために、外部講師と連携した取組を実施する	B			
		ＩＣＴ機器を効果的に活用し、学びの意欲や理解度を向上させる	B			
	実生活で生きて働く論理的思考と表現力の育成と、希望進路実現のための支援をする	日常的に読み、書く機会を増やし、主体的な言語活動を通じて表現力を養成する	A	A		
		自己を見つめ、分析して、表現することで希望進路を実現できるよう指導する	A			
		各種コンクールへの参加を推進する	B			
地歴・公民科	歴史、地理、公民各科目において、現代社会とのつながりを意識した授業展開を行い、主権者としての意識高揚をはかる。特に、新学習指導要領により導入された新科目について、その設定趣旨に基づいた授業改善を行う	「教科書をじっくり読んで、アンダーライン」「板書・ワークシートを写すだけでなく、メモの追記」を徹底し、社会の仕組みに関する知識理解を深化させる	B	A	A	授業では、知識・理解、資料解釈を学び、長期休業期間に小論文・レポート課題を課すことで思考力・表現力を磨く機会とした。結果、主権者教育に関するコンクールにおいて上位入賞者を複数出せた。また、家庭でのＩＣＴ機器を活用した進学補習について挑戦し、放課後や長期休業中の進路補習を軽減しながら入試対策とした。生徒の受験科目が多様化する中で、本教科の暗記科目的な要素については、オンライン講座より効果的に活用していく方向ですすめていく。
		『大単元・小単元・本時のねらい』を明確にし、資料解釈したり、まとめたり、表現する学習活動を通して、賛否の分かれる社会事象に関して最善解を考える授業展開を創意工夫する	A			
		各公益団体、大学等が主催する主権者教育、公共政策分野の小論文コンクール・プレゼンテーション大会等に積極的に応募し、上位入選を目指す	A			
数学科	コースに応じた授業展開で基礎力、応用力を育成し、新たな大学入試制度への対応を図り、希望進路実現へと導く	多様な生徒の実態に応じ、放課後等の適切な補充指導の実施	A	B	B	生徒の実情に合わせた補習指導を行い、最大限の効果を狙うことができた。ICT機器を活用し、授業及び家庭学習の効率化を進めた。基礎学力の定着・応用力はより一層の充実が必要である。
		定期的な課題提出、小テストの実施による基礎学力の定着	B			
		進路希望に合わせた応用力の充実を推進	B			
		サテライト講座と併せて進学補習の充実	A			
理科	生徒の興味・関心を引き出すような授業の工夫をすることにより、基礎学力の定着並びに科学的思考力の育成を図る	各分野の特性、生徒の状況等に応じて、ICT教材・動画・プリントなどの教材を効果的に使用することにより、生徒の興味・関心を引き出し、基礎学力の定着を目指す	B	B	B	各学年・学科の状況に応じてICT教材の活用や実験・観察を行うことで、生徒の学習意欲向上、科学的思考力育成に努めた。ただし、基礎学力の定着には個人差があり、今後も底上げに努めていく。
		計画的な観察・実験を通して、生徒の学習意欲を向上させ、科学的思考力を育成する	A			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
保健体育科	基礎体力・運動技能の向上と健康の保持増進を図る	様々な種目においてICTを活用し運動技能の向上に取り組めるよう活用方法を検討し実行する	B	B	A	保健での調べ学習や体育理論でパワーポイントを使用したのが今年度も実技においてICTを活用して運動技能を向上させる取り組みはできなかった。来年度以降活用できるよう検討していきたい。どの学年、講座も生徒が主体的に協力しながら行うことができ、様々な種目の楽しさや目標を達成する喜びを味わうことができたと思う。
		保健の授業において調べ学習等でICTを活用して現代的な健康課題を発見し、健康のために適切な方法を選択・決定できるようにする	B			
	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を行い、運動の楽しさや喜びを味わうと共に、公正、協力、責任や健康、安全に留意する態度を身につけさせる	仲間とコミュニケーションを取り、協力しながら行うことで楽しさや喜びを味わう	A	A		
		グループ学習で主体的・対話的に取り組むことによるリーダーシップ・フォロワーシップの育成	A			
		健康運動では地域の資源を活用し、運動やスポーツの多様な楽しみ方を知り、生涯にわたって親しめるスポーツを見つける	A			
芸術科	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	芸術表現の基本技術の習得	A	B	B	机間巡視を大切にし、個々が表現したいテーマに則した指導ができた。 前年度の優秀作品を常時展示することで、作品制作に対する意識を高めることができた。
		芸術作品の基本的な鑑賞力の育成	B			
		芸術を愛好する気持ちの育成	A			
		一人一人と向き合い、創造力や感性を育むゆとりある年間指導計画の実施	B			
英語科	多様な生徒の実態や生徒の希望進路に応じた指導の実践	「予習⇒授業⇒復習」の学習サイクルを確立させるとともに、小テストをこまめに実施する。	B	B	B	昨年度よりも多くの授業にALTが入ったことで、英語を用いて生徒が意見や考えを発信する機会を持つことができた。 実用英語技能検定に合格に向け、自由英作文や面接の対策を個別に何度も行い、CEFRレベルA2以上の資格保持者を昨年度同様まで増加させることができた。 本年度より導入されたスタディーサプリを十分に活用できなかった。学校での学習内容・時期を考慮しながら、適切なタイミングで動画の案内や課題の提示を行うことで、効率よく生徒の学力を育成できるような活用方法を模索していく必要がある。
		大学入試に対応できる学力の育成を目指し、スタディーサプリの最適な活用法を模索するとともに、進学補習を実施する。	B			
	「4技能5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）」の育成に向けた指導の推進	英語で生徒が自らの意見や考えを発信するための力を向上させるために、ALTを積極的に活用する。	A	A		
		4技能を測定可能な実用英語技能検定やGTECを校内で実施し、CEFRレベルA2以上の資格（英検準2級以上）やスコア（GTECスコア 690以上）の取得に向けた、筆記試験や面接・口頭試問の指導を推進する。	A			

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
家庭科	自らの生活課題を解決するために必要な基礎的な知識と技術の育成を図る	生活を主体的に営むために必要な知識と技術が身につく課題を工夫する	A	B	A	地域の保育所や行政・地域団体等との連携を進め、地域から学び、地域の活性化に貢献できる取組を勧めることができた。また、茶道や華道、和菓子作り体験といった伝統文化に触れる機会を持つことができた。今後も生徒が主体的に活動できるよう授業内容を工夫したい。
		生涯を見通して「生活の課題を解決する力」を養う	B			
		ICTを効果的に活用した主体的な学びを工夫する	B			
	地域の人々との交流の機会を通して地域生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を育成する	様々な事業を活用して、地域と連携した実践的な学習機会を多く設定する	A	A		
		実物に触れる体験を通して具体的に学ぶ機会を設定する	A			
情報科	魅力ある教材の作成情報の科学的理解	生徒に応じた教材の選定（研修旅行事前学習・本の紹介プレゼンテーションなど）	B	B	B	基本的なソフトの使い方、タブレットの使い方、図書館と連携した「本の紹介」とプレゼン、情報セキュリティの標語作成、プログラミングの基礎などに取組んだ。共通テストに向けた指導が課題。
		情報モラルやセキュリティ、最新機器に関する ことの実例の事例による理解の深化	A			
農業科(京都フォレスト科)	林業に関係する最新の知識や技術の習得を目指すと共に、京都フォレスト科が持ち得る特性を活かした教育活動を実践する	演習林や木材加工棟での実習を充実させる	A	A	A	伝統的手法と最新技術、最先端機材・機器を使用した授業展開を心掛けた。今後、最先端林業を実践的に教育活動に取り入れるとともに、機械の性能を十分発揮させられるように教員のスキルアップに励むことが重要である。実学に基づいた山林管理、委託実習の実践で、目的とする教育効果の増大に加え、収益実習としても効果を上げ、産業の魅力を伝えることができた。
		林業における最新の知識や技術の向上を目指し、実学に基づいた経験、体験を実践する	A			
	職業教育、産業教育を通して、社会で必要とされる人材の育成を目指す	実学に基づいた経験、体験から自己肯定感を高揚させ、社会を生き抜く「確かな力」や「社会人基礎力」の向上に寄与する	A	A		

教科	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
総合的な探究 の時間 (1年)	北桑田地域の自然、郷土史、民俗芸能を学術的・体験的に学び、その中にある地域社会の課題を、周り人々と協力しながら最善解を求めていく生き方について考える。また、授業で考察した内容を研究小論文や英作文としてまとめ、スピーチを通して伝える力を養う	第1学期（知識・理解）、第2学期（体験及び研究小論文の作成）、第3学期（小論文論旨発表または英作文によるレポート及び口頭試問）という年間指導計画を実践する	A	B	B	本校の特色である「地域と共に育む、学力向上システム」の基盤学習と位置づける本領域においては、新学習指導要領の領域目標、中央教育審議会が答申した普通科改革の方向性から鑑みて、他校の模範となる水準まで到達している。次年度、小論文＆論旨発表、英作文＆口頭試問の質的向上を意識した指導計画の改善にさらに務める。
		普通科キャリアデザインコースは、講義及び体験学習を通して、自らが興味を持った内容について、研究小論文としてまとめた上で、論旨発表を行う	B			
		普通科文理探究コースは、体験学習を通して感じたことを英作文〔文字数指定〕でレポートする。その後、英語指導助手に対し、要約説明及び質問に応答する。	B			
総合的な探究 の時間 (2年)	異文化理解を深化させながら、知識や経験を英語で適切に伝え合うことができるコミュニケーション能力を養成する	生活の中で学んだことや感じたことを、生徒同士で相互に伝え合う機会を増加させる	B	A	A	毎時間ALTを活用し、異文化について理解する機会を十分に確保できた。 地元の飲食店の英語メニュー作成を行い、地元とのかかわりを深めるとともにこれまでに習得した英語力を運用する機会を確保することができた。
		ALTが母国の文化や慣習を伝える活動を増加させる	A			
総合的な探究 の時間 (3年)	地域社会に生きる一人の人間としての自覚を高め、地域の魅力を発信することによってコミュニケーション能力や情報を取捨選択してまとめる力、表現力の育成をめざす。異文化理解を深化させながら、知識や経験を英語で適切に伝え合うことができるコミュニケーション能力の養成	地域に発信、提案するプランを作成する事で学習への意欲を向上させる	A	A	A	地域の魅力や活性化に向けた課題を見つけて発信するために、知識や情報を取捨選択してまとめる力、自分の考えをまとめて表現する力や態度が養われた。
		実際にプレゼンテーションをすることにより、表現力の向上をめざす	B			

学校関係者 評価委員会 による評価	①小規模な学校の在り方、コミュニティスクールとしての先進的な取組がマスコミで多く取り上げられ部活、進路補習等様々な取組で結果を出してもらっている。 ②学校経営計画の総括と保護者アンケートの結果より学校と保護者の評価に整合性がみられ、部活動の活躍や様々な取り組みが進路実績につながってきている成果がよくわかる。 ③その一方で一部の生徒指導案件が独り歩きし地元中学生や保護者からネガティブな評価を受けているという評判を聞くことがあり残念である ④少子化、過疎化により地元の子供が急速に減る一方、入寮希望の生徒が自宅生を上回るほど進学希望者があるにもかかわらず、寮の定員が1学年15名と少ないため結果として大幅な定員割れとなっている。寮の改築やスクールバスの運行等、可能な限り一年でも早く実現してほしい。 ⑤府立大学付属校化が実現された場合は特色を明確にし、北桑田で学びたい子供を募集することが重要。。
次年度に向けた改善の 方向性	・すでに新聞等でも報道されているが府立大学付属校化が実現するのであれば人口が急激に減り続ける北桑田地域の学校存続の最後のチャンスととらえ、ぜひこのことを起爆剤としてよい方向にもっていきたい。 ・今後、地域と学校との連携や貢献がどのような形でできるのか、運営協議会の委員としてどう関われるかさらに積極的に意見交換していきたい。